

ケプトヒラタキクイムシ

平成19年4月以来、ケプトヒラタキクイムシの成虫の相談が4件、幼虫の相談が1件ありました。いずれも外国で作られた家具に発生していました。平成21年8月に相談のあった事例は、ゴムノキを原材料として作られた合板の床板から発生したものでした。成虫と同時に持参された被害に遭った床板には、多数の穴が確認されました。また、成虫の体の表面は、フラス(木くずや糞(ふん)が混じったもの)にまみれていたことから、床板の被害に遭った穴から出てきたことが容易に推察されました。

合板で発生する理由

手元にはケプトヒラタキクイムシの生活史などを詳しく書いた文献がありません。恐らくはヒラタキクイムシに準じていると思いますので、ヒラタキクイムシについて説明します。木や草には、導管と呼ばれる管があります。導管は、根から吸い上げた水分や肥料分の通り道です。広葉樹、特に、ラワン材と総称される木材には、導管が太い種類が多いようです。その太い導管にヒラタキクイムシ科の成虫は、産卵します。やがて孵化(ふか)した幼虫は、木材中に深く入り込み、木材を加害します。そして、成長すると、脱出するための穴を開け、成虫が出てきます。

ケプトヒラタキクイムシの特徴

ケプトヒラタキクイムシは、ヒラタキクイムシ科の仲間です。ヒラタキクイムシ科の特徴は、前脚の根元の部分と胸部の接合部分の後方が閉じていること、前脚の根元の部分が丸いこと、複眼が側方に大きく突出すること、触角の先端の2節が大きく膨らむことなどです。さらに、ケプトヒラタキクイムシは、次のような特徴があります。触角の膨らんだ先端節が少し角張ること、翅(はね)の表面に特有の毛が生えていること、胸部の横の部分にノコギリの歯のようなギザギザがあり、そして、それぞれのギザギザから特有の毛が生えていることなどです。

幼虫

平成21年7月には、ヒラタキクイムシ科の幼虫が家具の一部やフラスと共に持参されました。やはり、海外で作られた家具でした。幼虫の全体の形は、アルファベットのCの字であること、木材中で生きていたことなどからヒラタキクイムシ科の仲間と判断しました。ただ、脚の形から日本で普通に見られるヒラタキクイムシでないことは分かりましたが、種類を決めることまではできませんでした。

難防除

幼虫は、乾燥した木材の内部で発育します。そのため、家具や床、壁面の周辺にフラスが出てきて初めて被害に気が付きます。幼虫も成虫も市販のスプレー式殺虫剤を吹き付けると死にますが、木材内部に生息する幼虫には、殺虫剤成分が届きません。また、導管を埋める目的で塗装し、産卵を阻む方法もあります。しかし、木材内部に生息している幼虫や成虫を駆除することはできません。

今回の幾つかの事例に共通した内容があります。外国で製造されていること、日本に輸入されてから数箇月で被害が出てきていることなどです。恐らく、海外での製造段階で既に汚染されていたと考えられます。海外での木材の処理や管理を適切に行うことが、ケプトヒラタキクイムシの被害を防ぐための最も重要な点と思われます。

